

会議名	令和5年度板橋区AIP推進協議会
開催日時	令和5年11月24日（金曜日）午前10時から12時
開催場所	板橋区役所 南館4階 災害対策室
出席者	<p>[委員16人]（敬称略）</p> <p>和気会長（明治学院大学） 鈴木陽一副会長（板橋区医師会） 村山委員（東京都健康長寿医療センター） 小林委員（板橋区歯科医師会） 藤原委員（板橋区柔道整復師会） 角田委員（板橋区介護サービス全事業所連絡会） 坂本委員（板橋区社会福祉法人施設等連絡会） 鈴木優子委員（板橋区訪問看護ステーション会） 鈴木穰委員（板橋区舟渡地域包括支援センター） 榎本委員（板橋区町会連合会） 高野委員（板橋区民生・児童委員協議会） 土田委員（板橋区シニアクラブ連合会） 相田委員（板橋区社会福祉協議会） 廣瀬委員（ボランティア・市民活動学習推進センターいたばし） 辻村委員（公募委員） 宮津委員（板橋区健康生きがい部長）</p> <p>[行政関係職員10人]</p> <p>長寿社会推進課長、介護保険課長、国保年金課長、後期高齢医療制度課長、健康推進課長、赤塚健康福祉センター所長、おとしより保健福祉センター所長、赤塚福祉事務所長、住宅政策課長、生涯学習課社会教育推進係長</p> <p>[事務局13人]</p> <p>おとしより保健福祉センター管理係長、地域ケア推進係長、介護予防係長副係長、介護普及係長、認知症施策推進係長、特別援護係長、医療介護連携担当係長、地域ケア推進係2人、介護保険課管理相談係長副係長、施設整備・事業者指定係長、</p>
会議の公開（傍聴）	公開（傍聴可）
傍聴者数	1人
次第	<p>令和5年度板橋区AIP推進協議会</p> <p>1 板橋区健康生きがい部長挨拶</p> <p>2 板橋区版AIPの現状と今後の取り組みについて（説明・協議）</p> <p>（1）本年度の取組状況の報告について</p>

	(2) 高齢者保健福祉・介護保険事業計画2026策定について
配布資料	<p>【資料1】 板橋区版AIP・7つの分野と重点事業</p> <p>【資料2】 事業概要説明</p> <p>【資料3】 板橋区高齢者保健福祉・介護保険事業計画2023 事業一覧</p> <p>【資料4】 重点事業進捗一覧</p> <p>【資料5】 一般事業進捗一覧</p> <p>【資料6】 板橋区高齢者保健福祉・介護保険事業計画2026の素案について</p> <p>【資料7】 板橋区高齢者保健福祉・介護保険事業計画2026 事業一覧</p> <p>【資料8】 板橋区高齢者保健福祉・介護保険事業計画2026 素案(抜粋)</p> <p>【資料9】 委員名簿</p> <p>【参考資料】 板橋区AIP推進協議会設置要綱</p>
議事内容	<p>1 板橋区健康生きがい部長挨拶</p> <p>2 板橋区版AIPの現状と今後の取り組みについて(説明・協議)</p> <p>(1) 本年度の取組状況の報告について</p> <p>(2) 高齢者保健福祉・介護保険事業計画2026策定について</p> <p>板橋区版AIPの構築に向けた本年度の取組状況の概要(資料1～資料5)及び、高齢者保健福祉・介護保険事業計画2026策定に向けた素案の概要(資料6～資料8)をおとしより保健福祉センター所長から一括して説明し、協議した。</p> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援体制整備事業について、開始から8年経過しており、これからの支え合いの進め方に課題を感じている。専門職と地域の関わりが少し弱いような気がしているため、一層積極的に専門職が地域のネットワークに関わる必要があると考える。 ・介護人材の不足が問題となっているため、支え合いの中でどこまでフォローしながら両立していくかということが大変重要なテーマとなり、今後の3年間がターニングポイントになると考えられるため、できる限り早く対応をしていただきたい。 ・専門職の同士の情報交換が大切になる。例えばフレイル予防は、多職種が関わることによって成果が大きいという印象があるため、できるだけ具体性を持って早急に進めていただきたい。 ・医療・介護・障がい連携MAPシステムについて、インフォーマルな資源の情報をデータベースとして閲覧できる取組を進めていただきたい。 ・介護人材の育成や人材の保障について、板橋区独自の介護人材不足の解消のために、多様な主体同士の垣根を越えて皆で行ってい

	<p>く必要性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政には、サービス供給量の問題と利用者がまずどういう状況なのかを吟味していただきたい。 ・介護人材の不足について、板橋の介護事業所は社会貢献をされていて、セーフティーであるというような内容であれば、解消していくのではないかと思います。そういう意味で福祉のブランディングを行政と一緒にやっていくことが大事になると思う。 ・介護人材の不足について、その他の業種に対して報酬等の低い部分を板橋区は補助する、若しくは、A Iを活用する等、何か抜本的な対応を行政として検討していただきたい。 ・次のフェーズとして専門職が地域に出て、地域住民が専門職に気軽に相談できる仕組みづくりが大事になると思う。 ・人材不足について、新たな協力体制の構築のため柔道整復師会の人材を活用していただきたい。 ・人材がない現状を踏まえると、健康寿命の延伸をして要介護状態になる年齢をあげていく必要があり、フレイル予防が重要となるため、行政の方でも理解・啓発・周知は様々な機会を通じて進めていただきたい。 ・フレイル予防について、多職種間における情報共有が課題である。 ・今後の社会情勢を踏まえると、地域の方々の力が必要となる。認知症フレンドリー協議会のような官民で行う取組を広げて、地域の人たちの力を活用していただきたい。 ・民生・児童委員やシニアクラブの存在の大切さをもっと発信していただきたい。 ・地域包括支援センターについて、高齢者の問題に限らず派生してくる問題を抱えている家庭も多いため、しっかり関係機関との連携に努めていただきたい。 ・行政に限らず地域の人たちが、地域包括支援センターと協力してサポートしていく仕組みづくりが必要になる。そのためには、区内で情報交換しつつ、作り上げていくことが必要になる。 ・生活支援体制整備事業について、どのような組織であるか分かりやすいように次期計画における記載を検討していただきたい。 ・地域の会議体に参加される方々が固定化しているため、周知方法について工夫する必要性を感じている。 ・民生委員の不足が課題となっている。民生委員の推薦等の業務は見直しの必要性を感じている。 ・人材不足について、元気な高齢者の能力を生かし、高齢者がもっと活躍できる板橋区にしていただきたい。
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア活動支援について、シルバー人材センター以外の事業活動や有償ボランティア活動が推進できるような高齢者のニーズに合った仕組みづくりを進めていただきたい。 ・板橋区版A I Pの7つの重点分野について、各分野の事業をうまく掛け合わせて相乗効果が出るような施策の展開を検討していただきたい。 ・今後、多職種の人材を活用し、官民の連携を一層深めて板橋区民の健康につなげていただきたい。
<p>所管課</p>	<p>健康生きがい部おとしより保健福祉センター地域ケア推進係 電話：5970-1114</p>